

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第748号（令和八年六月号）

・表紙：「田植え（仲夏・生活）・早苗（仲夏・植物）」（次月兼題）



【表紙の説明】

今月号の表紙は和歌山県有田川町清水の「あらぎ島」です。「あらぎ島」（漢字では「蘭島」と表記）は「島」という名称ですが、農水省の「日本の棚田百選」にも指定されている有田川上流域のれっきとした「水田」です。

【季語・田植え（仲夏・生活）】

【子季語】 畦田、田植笠、大田植、田植機、花田植、花田牛、御田植祭、御田祭

【解説】

苗代で育てた早苗を代田に植えること。田植はもともと神事であり、梅雨のころの集落のもっとも大切な共同作業であった。昔は苗をまっすぐ植えるため、一列に並んで植え下がったが、田定規の出現で、前進植えに変わった。現在は機械植がほとんどである。しかし、苗を植える作業は昔も今も農家にとって大切な作業であること変りはない。全国に多くの神事も残っている。

【有名俳人の句】

- ・田一枚植て立去る柳かな／松尾芭蕉
- ・鯰得て帰る田植の男かな／与謝蕪村
- ・田うゑ唄あしたもあるに道すから／加賀千代女
- ・田を植ゑるしづかな音へ出でにけり／中村草田男
- ・しづかにも田植ゑて山河あらたまる／森澄雄

【季語・早苗（仲夏・植物）】

【子季語】玉苗、早苗束、余り苗、浮苗、早苗籠、苗運び、苗配り、苗打ち、早苗舟

【解説】

稲の苗のこと。おもに、田植えのときの苗をいう。そのみずみずしさをたたえて玉苗という美しい呼び名もある。水を張った田に苗の束を投げ込むのを苗打ち、方々の田に苗を分けるのを苗配り、舟を使えば早苗舟などの子季語もある。

【有名俳人の句】

- ・早苗とる手もとやむかししのぶ摺／松尾芭蕉
- ・山おろし早苗を撫て行方かな／与謝蕪村
- ・翁さび媪さびたり早苗取る／長谷川權

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された10名の50句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

14点 温州、11点 要、10点 恵吾、9点 勝

<高得点句（4点以上）>

- ・水に浮き水に従い水馬／要・・・7点
- ・新学期ぶかぶかの服はじけをり／修平・・・4点
- ・老妻と足湯に浸る花疲れ／恵吾・・・4点
- ・山城の反りし石垣楠若葉／温州・・・4点
- ・新緑や声の弾みし通学路／甲舟・・・4点
- ・鮎子や潮目綾なす須磨の浦／恵吾・・・4点
- ・げんげ田に寝転び仰ぐ青き空／温州・・・4点

<惜しい3点句>

- ・花冷えをいやす有馬の足湯かな／六甲
- ・高齢者口は達者よ春惜しむ／勝
- ・枝すべて染めたるごとし花蘇芳／勝
- ・若葉風回覧板の良く廻る／要
- ・花の雨終の別れの老姉妹／碧亥
- ・花の下老の歩遅々として倦まず／碧亥
- ・青空に伸びる国道麦の秋／温州
- ・金次郎像のかたわら桜咲く／温州

☆特選句および選評

* 50句の中で特によかったと思った句に選評を付して各人が一句選びます。

特選句には2点のポイントが与えられますが、特選句が必ずしも高得点句になるとは限りません（高得点句になるには多くの同人の選句が必要です）。

- ・水に浮き水に従い水馬／要・・・・・・・・・・ 2名の選
（選評）・水馬（みずすまし、あめんぼ）の生態と的確に表現している。また、「水」のリフレインが非常に巧みである。
・アメンボウ（水馬）をよく観察された。踏ん張るように広げた脚が表面張力を利用して体を浮かせる。流れがある処では無理に流れに逆らわない。細かいところまでよく観察された。
- ・新学期ぶかぶかの服はじけをり／修平・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・映像が目に浮かぶような句である。ぶかぶかの服がはじけるという表現はユニークでユーモアたっぷりである。
- ・老妻と足湯に浸る花疲れ／恵吾・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・老夫婦、仲の良いこと。美しい光景である。
吹田市の万博記念公園にも足湯があるので、一度妻と浸りに行くつもりです。
- ・山城の反りし石垣楠若葉／温州・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・復興中の熊本城は山城とはいわないようだが、石垣はまさに「武者返し」「鼠返し」といわれる石垣で、加藤清正の城である。今、まさに楠の若葉に つつまれている。
- ・新緑や声の弾みし通学路／甲舟・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）近所の老婆の言「家の前の通学路・朝は静か、帰りはにぎやか。朝はきんちよう、帰りはホットしてか」と。
- ・金次郎像のかたわら桜咲く／温州・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・小生の小学校時代は戦時中で学校の正門脇には、いづれの学校でも金次郎像があった。苦学を超え学問そのものの象徴でもある金次郎像は、今いづれの学校でも建立されているのだろうか。そうであれば嬉しい限りだ。
- ・青空に伸びる国道麦の秋／温州・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・一服の絵のような光景です。広大な麦畑を貫く国道の先は青空に溶け込んでいるようだ。
- ・若葉風回覧板の良く廻る／要・・・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・この時期、町内の役員の交替や市の広報が新しくなったりして、又、町内の訃報が何人か必ずあったりと、毎日のように回覧板が回って来る。一寸した川柳的面白味を頂きました。
- ・花の下老の歩遅々として倦まず／碧亥・・・・・・・・ 1名の選
（選評）・ゆっくりとではあるものの歩みを止めない。あるいは止めたくなくて、花の下の散歩を続ける作者の心情がよく伝わってきます。

☆その他のトピックス

1. 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計50句を出句されました。

2. 近況報告等

◎温州より、柑芦会公式フェイスブックに『芦火』の活動のおしらせ』を掲載した旨報告させて頂きました。

◎勝様、要様、碧亥様より近況報告がありました。

お三方ともお元気そうで何よりです。

◎穂心様より、五月連休明けに和歌山大学を訪問されたとのこと報告がありました。

四学部・一学環の現大学は嘗ての大学と比べて小振りになったと感じられてとのこと。そうした中でも、ソーラーカーで注目の「クリエ」の取り組みや、地域連携、産学協働の「アントレプレナーシップ教育」、「学生挑戦コンテスト」等について大いに注目をしているとのことでした。

◎要様より「ショート・ショート」の投稿がありました。題名は「仔犬の写真」です。

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の11名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)